

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103276
法人名	株式会社 プロGRESS
事業所名	グループホーム愛愛
訪問調査日	平成 21 年 8 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 6 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103276
法人名	株式会社 プロGRESS
事業所名	グループホーム 愛愛
所在地	鹿児島市川上町2751番地16 (電話) 099-244-8876

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年10月6日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 11 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	7.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	18,000円(水道光熱費・日用品)
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8 月 1 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新牧医院・よしの相良外科胃腸科・宮ノ下歯科クリニック・大迫歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホーム周辺は空き地も多く閑静な住宅街にあり庭先のケヤキの樹には鳩が住み着いている。開設から7年が経過し、管理者・職員・利用者共に落ち着いた家庭的な雰囲気である。利用者の健康面に配慮し、2週間に1回の往診、24時間対応の医療連携、系列のデイサービスのリハビリ機械の利用、自立支援に向けた生活リハビリの充実、外気に触れる生活支援をしている。安全面に配慮し、全職員は心肺蘇生術とAEDの定期的な訓練を行い、ヒヤリハットの内部研修は今年度のテーマとして何度も行っている。年4回発行の「あいあいだより」は家族の立場になって編集されており温かさが感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善課題はありません。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は常勤職員5名に自己評価表の項目の割り振りを行い、5名の職員は他の職員の意見を聞きながら責任を持って作成し、それを管理者が目を通し、気になる項目はアドバイスし再度職員に見て貰い最終的な作成をしている。出来上がったものを全員で確認している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は過去1年間に6回開催している。毎回ホーム側から議事内容を提示し各委員から質問、意見、評価、アドバイス、今後の改善点、要望など討議している。会議をするようになって家族の理解が得やすくなり、地域の人とも親しくできるようになった。公民館トイレの設置提案にも応じてもらっている。周辺地域の不便さ(車椅子移動が困難なゴミ収集場、駐車場スペースの確保など)の事情を話したり、議事内容に若年認知症の支援やヒヤリハット事例など専門的な事を持ち込み事業所の力を地域に活かせるような取り組みもしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は家族の意見が大切であることを認識し、家族会や面会時には聞く体制でいるがなかなか意見が出なく、家族が集まりやすい行事の機会に年2回アンケート調査を実施し意見を聞きだす努力をしている。結果を職員と話し合いそれらを運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、会員の踊りや大正琴、話し相手などボランティアの受け入れをしている。ホーム主催の敬老会やクリスマス会には近隣の保育園児が参加している。老人会クラブに加入し食事やマジックショー、七夕祭りなど毎回の催しに参加している。火災訓練には地域の人の参加もあり交流の広がりがある。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年の開設時に全職員で作成された理念で、当時から地域に馴染んだ生活の継続支援が盛り込まれた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎日朝夕の申し送り時には必ず理念の唱和を行い、職員の目に触れやすい玄関、トイレ、室内に理念を掲示し理念の実践に向けて意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、会員の踊りや、大正琴、話し相手などボランティアの受け入れをしている。ホーム主催の敬老会やクリスマス会には近隣の保育園児が参加している。老人会クラブに加入し、食事、マジックショー、七夕祭りなど毎回の催しに参加し地域の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は毎年の自己評価に参加しており項目の理解もしている。今回は5名の常勤職員が手分けして相談しながら作業に取り組み、ケアを振り返り具体的な改善点をあげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は過去1年間に6回開催し、毎回ホーム側から議事内容を提示し、各委員から質問、意見、評価、アドバイス、今後の改善点、要望など討議している。会議に家族が出席することで家族の理解が得やすくなり、又地域の方々とも会話ができるようになり意見を活かした取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎年鹿児島市から介護相談員を受け入れている。支所には認定の変更・更新に向くが窓口は混雑していてゆっくり相談できる体制ではない。包括支援センターへ出かけ、おむつの申請やパンフレットの配布、空部屋・利用状況など情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームは「あいあいだより」を年4回発行し、利用者の家族や遠方の親族にも送付し、暮らしの様子が分かり易いと好評である。管理者は毎月利用者が書いた手紙と、職員が利用者の近況報告や各家族の必要とする情報を書いたものを同封している。電話やメールなど個々に合わせた随時の報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族の意見を大切に認識しており、訪問時や家族会では聞く体制であるがなかなか意見が出なく、家族が集まりやすい行事の機会に、年2回アンケート調査をし意見を引き出す努力をしている。結果を職員と話し合いそれらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員を関連事業所への異動はしない考え方である。退職者がある場合には新人職員には前もって訪問してもらい、スムーズな関係を築けるように図っている。管理者は偏らない勤務表作成や職員の親睦をはかり食事会をしたり離職を防ぐ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て職員の段階に応じ研修に参加できるようにしている。月1回の会議では伝達研修を行うものと、書類の展示で自主学習するものに分け参加できなかった職員も学べる仕組みにしている。内部研修としてはヒヤリハットに重点を置き研修している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム連絡協議会に参加し、吉野地区グループホーム連絡会「よかど会」では管理者・職員が勉強会に参加している。管理者・職員は吉野、谷山、伊敷、荒田の同業者と交流し、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者には入居前に1～2日の宿泊体験をしてもらう方法を取り、納得の上で入居してもらっている。家族から利用者の性格や趣味などの情報をもらい、同じ趣味を持っている人や地域が同じ人、話が合わせやすい他の利用者と同席できるように工夫し不安にならないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は支援する中で一方的な関わりにならないように、利用者の得意場面での出番には力を発揮してもらい(漢字が得意な方には教えて貰い、味噌造りの得意な方には作り方の指導をもらい、食べ物の不自由な時代の話などを教えて貰うなど)共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は利用者同士の会話の中で把握したり、個室にいる時間帯や入浴時間など1:1で向き合った時に声かけを行い意向の把握をしている。把握したことは日誌や申し送りノートに書き留め、担当者が3ヶ月に1回情報収集したものを発表し、全員で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成には本人・家族・主治医からの意見や要望を聞き、職員間で意見やアイデアを出し合いながら利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回家族の意見や要望を主治医に見て貰い、主治医から意見・指示をもらう。それを踏まえて職員間で話し合い、今後の方針や目標を立て介護計画の見直しをしている。3ヶ月前であっても変化や要望があった場合は現状に即した見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2週間に1回主治医に往診をしてもらい、協力病院とは24時間支援があり医療連携ができています。通院や送迎、受診介助の支援も柔軟に対応しています。系列のデイサービス施設内にある一般開放のリハビリ機械を利用し体力維持の支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望を大切に考えています。殆どの家族・利用者は2週間に1回の往診や24時間対応可能な協力病院をかかりつけ医としています。他のかかりつけ医であっても適切な医療が受けられるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての指針は契約書に明示してあるが、利用者側が具体的に判断しにくい。看取り介護ができる職員体制とは言い難い。	○	重度化や終末期に向けた事業所の指針を利用者側が理解できるように具体的に明示していただきたい。また方針にそってホーム側の体制の見直しを行い対応出来る体制を備えられる事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については入居時に説明をし同意を得ています。職員は記録物の保管管理についても周知しています。理念に人としての尊厳を尊重することを謳い、職員はプライバシーを損ねる言葉については理解しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるが、利用者の昼寝、就寝時間、食事時間、入浴時間など柔軟な対応をし、散歩、買い物、理美容院行きなど希望にそった支援もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好み聞きながら職員が献立をつくり、利用者は食事作りの一連の作業の中で自分の力が発揮できる部分を活かしながら職員と一緒に作っている。個々に合わせた味付けや食べ易い形態の食事作りを心がけ、一緒に会話しながら楽しい食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日出来るように準備されている。一日おきに入浴してもらうように計画しているが本人の体調や希望に合わせて入浴回数は柔軟に対応している。体調の悪い人には清拭を行い、広々とした風呂場で仲良しの人と一緒に入浴したり、希望の時間帯に入浴したり楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意なこと、好きなことを活かし役割(野菜の皮むき、皿拭き、お茶入れ、茶碗洗い、雑巾縫い、モップがけ、洗濯たたみ等)を持ってもらい張り合いや喜びに繋げている。カラオケやかかるた取り、ドライブ、誕生日会など楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調、気分をみながら出来るだけ外気に触れるように近隣の散歩や庭のベンチでお茶を飲んだり、庭のテーブルでカルタ取りをしたり、ホームの畑で収穫や草取りをしたり、系列のデイサービスに出かけたり、買い物、ドライブ、老人会などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し日中玄関の鍵はしていない。死角になる勝手口の二重ロックは昼間は簡単な鍵のみしている。3名の出かける傾向のある人には、職員の注意が注がれ、手薄な事態に備えセンサーによるチャイムを備え、近隣に協力をお願いして安全対策をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもとに地域住民、家族も参加し、年2回火災の通報、消火、避難訓練を行い、年1回は夜間想定で火災の自主訓練を行っている。ホームは地域住民の協力の大切さを意識しており地域交流会を通じ消防訓練参加の呼びかけを行っている。	○	火災対策に偏らず、地震、風水害に対する対応についてマニュアルを作成され、職員は日頃から十分な知識を身につけ、万一来に備え対応出来るようにしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が作成した一週間分の献立を協力病院の栄養士に見て貰い食事を作っている。摂取量の記録と月1回の体重記録で状態を観察してる。水分摂取の大切さを認識し水分量については摂取量の目安を把握をして支援しているが記録は医師の指示のある人のみ1日分のトータルを記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの大窓にはカーテンを使用し、やわらかな光を取り入れている。ホールには利用者が毎月作る作品（毛筆で書かれたくりや花火の文字、花火や七夕の張り絵など）や七夕の歌詞が掲示され季節感を感じる。利用者が何時でも日にちが認識でき安心して暮らせるように大きな文字が表示してある。室内の換気、温度、湿度も管理されており利用者はソファークーナーでテレビを見たり、畳コーナーで洗濯物たたみをしたり自由に過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みの品（箸、湯呑、布団、枕、帽子、家族の写真、アルバム、クッション、椅子、目覚まし時計、衣装ケースなど）が持ち込まれている。お誕生日に職員からプレゼントされた本人の写真・コメント入りの壁掛けや利用者の手作り作品を飾って落ち着いた部屋にしている。		